



世界が認めた  
芸術に、  
いつでも会える。

モンマルトル

1935年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×81.0cm

パリ・モンマルトルの街角が、奥行きを強調する構図で描かれています。黄色いパン屋や赤いカフェが曲がり道に沿って並んでいて、遠くに見えるサクレ・クール寺院へと視線を誘導します。絵の具を少しずつ塗り重ねることで、道路や壁のざらざらした雰囲気が表現されています。



麦畑

1954年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×60.6cm

青空の下、金色に実った穂が風に撫でられて気持ち良さそうに揺れている様子が、画面いっぱいに描かれています。青と黄色はお互いを引き立て合い、積みわらや遠くに見えるだいたい色の地平線が空間に奥行きや広がりを感じさせます。日差しをあたたかさや麦穂の匂いを感じられる作品です。



金のかたつむり

1978年 / 油彩・カンヴァス / 146.0×97.0cm

手前にある5階建ての白い建物は、レストランです。現在は、この店はありませんが、萩須もここで食事をしました。1階のひさしの青色と、その上にあるレストランの看板「かたつむり」の黄色が、画面の明るいアクセントになっています。建物を見上げるように描き、隣の建物をあえて細部まで描き込まないことで、白い建物がせり出してより堂々と見えます。

全て萩須高徳作、稲沢市萩須記念美術館所蔵  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 G1355

萩須高徳の略歴

西暦	年齢	主なできごと
1901	0歳	愛知県中島郡井長谷村大字井堀(現在の稲沢市井堀高見町)に生まれる
1921	20歳	愛知県立第三中学校(現在の津島高校)を卒業後、上京する
1927	26歳	東京美術学校(現在の東京藝術大学)を卒業後、9月にフランス留学の途につく
1928	27歳	この頃から署名をOguissにする サロン・ドートンヌに初入選
1930	29歳	パリのル・スタジオ画廊で初めての個展を開催する
1933	32歳	モンマルトルのオルドネル通りのアトリエに入居(美術館にこのアトリエを復元しています)



西暦	年齢	主なできごと
1936	35歳	サロン・ドートンヌ会員に推挙される
1940	39歳	第二次世界大戦の戦局悪化により13年ぶりに帰国する 帰国後は新制作派協会の会員として迎えられる
1948	47歳	日本人画家として戦後初めてフランスに渡る
1956	55歳	フランス政府から、レジオン・ドヌール勲章を授与される
1978	77歳	「萩須高徳パリ在住50年記念回顧展」が、パリ市主催で開催される
1981	80歳	稲沢市に《金のかたつむり》が寄贈される
1983	82歳	稲沢市萩須記念美術館が開館する
1986	84歳	パリのアトリエで死去 同日付で文化勲章が授与される

萩須高徳

Takanori Oguiss



浅岡敬史 撮影

Cultural figure beloved to the world

Artist from Inazawa beloved throughout the world

Takanori Oguiss continued to draw the streets of Paris from the pre-war period through the post-war period. Spending more than half his life in Paris, his achievements were acclaimed internationally and he received the Legion of Honour from the French government and the Order of Culture from the Japanese government. Takanori Oguiss was born in what is now Iboritakami Town in Inazawa City. He spent his sensitive years from infancy through his teens in Inazawa, and it was here in his hometown he cultivated the practice of staring deep into his subject to depict the scene before him.

The Paris Takanori Oguiss portrayed was not that of the brilliant main streets, but small shops and back alleys, old churches, and other scenes of regular everyday life in lesser parts of town. His paintings, drawn with the greatest affection down to the finest details, have an overflowing gentleness.

世界中で愛される  
稲沢が生んだ画伯

戦前・戦後を通じてパリの街を描き続けた萩須高徳。画家としての生涯の大半をパリで過ごし、国際的な功績を残し、フランス政府がレジオン・ドヌール勲章を授与。日本政府より、文化勲章を贈られました。  
萩須高徳が生まれたのは、現在の稲沢市井堀高見町。幼年期から10代までの多感な時代を稲沢で過ごし、対象物を深く見つめながら風景を描くという姿勢は、この郷土で培われました。  
萩須高徳が描いたパリは、華やかな表通りではなく、小さな商店や路地裏、古びた教会などの日常の下町風景。細部まで愛情深く描かれた絵は、優しさに満ち溢れています。

美術文化の発信拠点として

美術館では、一般展示室の貸出を行っています。年間50を超えるグループや個人が作品発表の場として利用しています。また、会議室では美術館が主催する講演会や講座の他、約20のグループが絵画などの美術講座を自主的に行っており、市民の芸術発表や文化交流の拠点となっています。



萩須記念美術館

Oguiss Memorial Art Museum

文化の杜の一角にあり、館内には萩須本人から寄贈された作品を含め、東京美術学校時代の習作から晩年の作品まで、各時期の作品が展示されています。